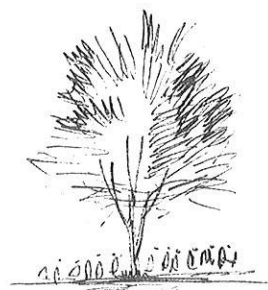


光の子



No.97 2002. 1. 1

- わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、
わたしにしたことなのである。(マタイによる福音書)



「楽しいお正月に」

え・中島英子

明けましておめでとうございます
この年こそ子どもたちの輝くような笑顔が満ちますように！
よろしく願いいたします

社会福祉法人 光の子どもの家

「鮭のぼる」

南限をここと定めて鮭のぼる

鮭なほものぼりて傷を増やすなり

鼻曲り母なる川をさかのぼり

うべなふは天のはからひ冬ざくら

声あらば消えなむものを冬ざくら

われもまた迷へる羊聖夜劇

空つ風杭の根もとの土湿り

落合 水尾 (『浮野』主宰)

家出娘の御帰館

エッセイ

いささか過激なタイトルである。いま時の風潮の中では、いくらでも有り得るようだが、実は、我が家のめす猫のことである。

特別に猫好きという訳ではないが、いつの間にか数が増えて、最高十三匹になったことがある。それも、もち論一匹から始まった。

十数年前に、娘が（これは猫ではなく私の娘）まだ学生だった頃、アパートのそばで、一匹の捨て猫をひろった。長崎から来ていた友達と二人で世話をしていたのだが、夏休みにその友達が帰郷するので、一夏のつもりで娘が我が家に連れて来たのが始まりである。次第にその子や孫が産まれて猫の大家族ができた。ところが、その家族の中でも、人間関係？（猫の対猫関係）がうまくいかなかった。

そのうちに、最も尊敬されて然るべき初代の親猫が、いつの間にか家に寄りつかなくなってしまった。大勢の子や孫と暮らす生活が煩わしかったのかも知れない。別に子や孫達が初代の親をそまつにしたり、いじめたりした訳ではないのだから、そ

彫刻家 中島 陸雄

の初代は子孫を置きっぱなしにして、近くの私の弟の家に行つて可愛がられ、すっかり向うの家のものになつてしまった。

その後、残された猫の家族にも、時間の経過と共に紆余曲折があつて、六匹に減つてしまつていた。そのうちに、この中で又一匹だけ家族に馴染めないのができたのである。何となく居心地が悪いらしく、家を出た切りになつてしまつた。交通事故を心配して近くの通りを探したりしたが、見つからない。もうだめだ、と諦めていると、二十日振りくらいに、突然帰つて来た。しかも正規の入り口からでなく、我々の寝室の窓から入つて来たのである。空白の二十日間のいきさつについて何の説明もしない猫に「それ餌をたべろ」「それ水を飲め」と、私達は犬サードビスをした。しかし、他の猫達と顔を合わせる事もなく、窓からプイと出て行つてしまふ。

それ以来、この家出娘は窓から入つてきて特別に用意された餌を食べ、窓から出て行つてしまふという生活パターンが固定化して、しかもこれ

子どもたちの声を

子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。
神の国はこのような者たちのものである。（ルカによる福音書）

理事長 飯田 進

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様は祈りのうちにあつて、子ども三十二名、職員十八名大過なく一年を過ごし新しい年を迎えることができました。

これもひとえに皆様のご理解と、お祈りの賜と思ひ、一同、共に心より感謝を申し上げます。

昨秋、高校を卒業した一人の愛する姉妹が米国に留学し勉学に励んでおります。健康を支えられ、かねてよりの念願が叶うべくどうか皆様の祈りの端に加えて下さるようお願い申し上げます。

すぐる前世紀の初頭、スエーデンの著名な平和主義者であり婦人運動家、教育学者であつたエレン・ケイは「二十世紀は児童の世紀である」とのメッセージを世界に発信し、大きな影響を及ぼしました。ケイは世界の動きが、戦争に駆り立てられ軍備の拡張競争にしのぎを削つていく様をみて憂ひ、新しい世紀が平和な世紀となることを心から願ひました。それを実現するには人間が変わらなくてはならず、そのためには新しく生まれてくる子どもの教育の重要性を世界に訴えたのです。

残念なことに二十世紀には二度にわたる世界大戦が勃発し、それ以外にも絶え間ない内乱・紛争が引き続

いており、そのたびに多くの子どもが悲惨な犠牲の中心となつています。ケイの願つた平和とは程遠い争いの連続で二十世紀は幕を閉じました。

戦争は、子どもから親や家族を奪い取り、家庭を破壊する重大な権利の剥奪を強い、心に深い傷を与えてしまひます。わが国は、昭和二十年の終戦後、制定された憲法の基本理念の一つは、皆様もよくご存じの「基本的人権の保障」です。そのために、わが国は世界の国々に率先して、軍備と軍隊の放棄を宣言し約束するといふ画期的な憲法を持ったのです。軍国主義から一転して民主主義を遵守する国となつたのです。

第二次世界大戦は、総数約十二万人強といわれる戦災孤児や引き揚げ孤児、非行児などを大量に発生させました。彼らはビルや焼け跡や地下壕で自分たちだけで生きのびていたのです。ジャン・シャザルの言うように「子どもは人間としてあらゆる『権原』をもっているが、自分で行使することができないのが特徴である」と言っています。

このことは、親や社会が自分たちの権利を優先し過ぎると子どもの権利が侵害され易いことを意味していると思います。

「国連・子どもの権利に関する条

が何年か続いた。雨の夜や風や雪の夜も、どこかで過している筈なのに、不思議に体が濡れたり汚れたりしてはいなかった。「うちの家出娘も困つたもんだね。」などと話ながらも、半分野性的な生活ではあつても、何とか日の届く所にいるという安心感があった。

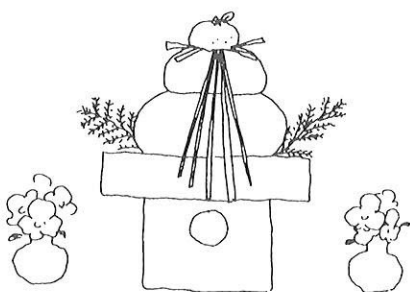
その後家に残り、充分な餌をもらい、暖かい所で暮らす五匹の幸福な猫達が、或る時、外国から入つて来たというウィルス性の伝染病に罹り、次々と死んでしまつた。恐ろしい事であつた。私達は、「早く気付いて予防注射をしてやれば良かった。」と後悔した。しかし、すべて失われてしまつた。

そんなわけで、家の中に一匹の猫もいなくなると、例の家出猫が家に居付くようになった。正規の出入り口から堂々と出入りするようになり、正規の場所で餌を食べる普通の生活を始めたのである。しかも、今までは考えられない程人間にすり寄つて来るのである。家の中では、もう誰にも気兼ねする事なく、自分だけで我々人間を独占し、過剰なまでに甘えてきて、今度はこちらが煩わしい。夜になると、フトンの中に、極めて図々しくもぐり込んで来て、朝まで居るし、暑くなると首だけ出し

「約」は、子どもを「権利の主体」としてとらえ「子どもの権利の最善の利益」を規定し、それを守り適切に行使できるようにすることを国や社会に義務づけ、最優先順位として強調しています。

テロ攻撃とそれへの報復で「新しい型の戦争」の恐怖にさらされた今まさに、世界は戦つています。この戦争でまたたくさんの子どもの犠牲が報道されています。テレビ画面に写しだされるシーンから、子どもの悲しい必死の叫びが誰かに届けよとばかりに聞こえてくるようです。

戦争を引き起こした、そういう大人たちの一員である私たちの、誰が、一体どうすれば、子どもたちのこの悲痛な叫びを聞き入れ、真の平安を与えることができるのでしょうか。



ている。こちらが寝返りをうとうとすると、「こら、動くな!」とばかり背中あたりに爪を立てる。手を出せば指先に噛みついたりする始末。しかし、それらの行動は、半分野外で暮らしていた長い間のブランクを、一気に取りもどす為の愛情表現や要求の表われのようである。まるでストーカーの如くニャーニャーと後を付けて来るのは、餌をよこせという要求だけでなく「私を無視しないで!」という愛情の要求なのであろう。

世の中に背を向けて、猫の家族に近寄ろうとしなかったあの、スネためす猫も、やはり、胸の奥には普通の猫が共通して持っている普通の心理を秘めていたに違いない。ただ、それを、何かの、ちよつとしたきっかけで、素直に表現できなくなり、開き直つていたのではなからうか。

長い半野生生活の中で獲得した本能的な技術によって、小鳥や鳩やねずみなどを取って来るのは、大変に上手である。時には蛇までも取つて来て、我々に獲物を誇り、論功行賞を要求するかの如くである。

そんなわけで、すっかり家に落ち着いた家出娘は、今夜もきつと、人間の温もりを求めてフトンに入つて来るに違いない。

いま大学はてんやわんやである。平成十六年度から国立大学は独立法人化されることが確定的になったからである。いわゆる軽い政府にするため、行財政改革の一環として政府機関の一部を独立法人にする法律が制定され、それが国立大学にも適用されることになった。

学 士 会 館

山形大学 仙道 富士郎
学 長

た訳である。長期に渡る不景気で国の財政が厳しくなり大学の運営に使えるお金が満ち足りた状態ではなくなっただけという事情もあろうがこれを機に従来の国立大学のシステムを根本的に変えてしまおうねらいが一方にはある。

大学の歴史の中で最も大きな変化は、戦後の旧制から新制への移行を伴ういわゆる学制改革であったと考えられるが、今回の独立法人化は、それとは比べるべくもない大きな変化と言える。この数年間大学の教官達はこの問題の是非についてケンケンガクガクと議論してきた。

その議論の大元締めみたいなところろが、九十九の国立大学の学長がその構成員になっている国立大学協会（通常略して国大協と呼ぶ）という組織である。

先日も独立法人化に対する国大協の最終的な考え方を決めるための臨時総会が開催され、出席してきた。私は入試ミスを起こしてしまった大学の学長ということで小さく（意識の上では）なっていたが、一癖も二癖もありそうなじいさん達が一堂に会した様は何とも異様ではある。議論の方はケンケンガクガクというわけではなく、一人の地方大学の学長さんのするどい批判を除いては、部分的な修正点を掲げはするものの、おおむね文部科学省が設置した委員会から出された報告書の内容を評価する発言が相継いだ。

異様なのは国大協のおじいさん達だけではない。会議が開催された学士会館全体の雰囲気も世間一般の空気がどうも違うのである。今回の会議を含め都合四回の学士会館での会議に出席し、そのうち二回は宿泊もしたが、まず入口ドアを開けて中に入ると、古色蒼然とした感じで、入館者に名前を記入させる所があり、私あまり学者風ではないせいか、何となく威圧感をおぼえる。ところ

が、ロビーを通っていくと、いかにも元学者風のおじいさん達が、閉基や、ビリヤードに打ち興じている。つまり、ここは学士会館のクラブなのである。入館者に名前を書かせるということはクラブ員以外の入館に規制を加えているということである。私は学士会館のクラブとしての性格を嫌というほど気づかされる経験をした。

午前と午後の会議の間に一時間半もの休憩時間があり、外出して昼食をとった。食事を終えてもまだ一時間もある時間がある。学士会館に談話室があることを思い出し、そこで書かなければならない手紙などをしたためて時間をつぶすことにした。談話室の入口にある「会員以外の方の使用は御遠慮下さい」という立て馬に若干ためらいを覚えながらも、会議に参加しているのだからいいだろうと、入っていった。

そこで、私は声高に談笑する老人達の多くのグループに出会うことになる。ここはまさに談話室なのである。そして、私が談話室の一角に座って手紙を書いている間にも各グループに新しい老人達が加わっていき、談笑の輪は広がっていく。

欧米はクラブ組織というものを発達させた伝統を持っているが、我が

2つの文化に生きる

31

日本キリスト教団東大宮教会
バーガー 京 子

新年を迎え、心も身体も新しくされ、何もかも新しいスタートをきれることに感謝している。

昨年十一月末の教会修養会では前年に引き続き、元鎌倉雪ノ下教会牧師の加藤常昭牧師に大変お忙しい中、来ていただき、「みことばと御霊にいかされる教会」と題して講演をしていただいた。愛の共同体としての教会でキリストが弟子たちの足を洗ったように私たちもお互いの足を洗いあえるような教会の交わりをしたいと思います。

加藤先生は数々の本を書かれています。修養会会場で先生が書かれた本を一冊購入した。「主イエスの譬え話」である。聖書の中の福音書にはイエスのたとえ話があちこちに出て

くる。何度も読んだ箇所がほとんどだが、もう一度、イエスがたとえ話を通して私たちに何を語ろうとされていたのかを深く学びたいと思い、この本を買った。

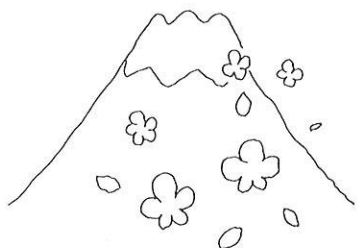
マタイによる福音書二十五章にはタラントの話がある。ある人が旅行に出かける時、しもべたちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれに力に応じて、一人には五タラント、もう一人には二タラント、もう一人には一タラントを預けて旅に出かけた。そしてその主人の留守の間、五タラント、二タラント、一タラントを預けた人はそれぞれのお金で商売をし、預かったお金を倍にふやしたが、一タラントを預かった人は地に穴を掘り、隠しておき、主人が帰ってきた時、そのままの一タラントを主人に差し出した。そこで、主人は始めの二人は善めたのだが、一タラントを差し出したしもべを強くお叱りになった。土に埋めてしまふのなら銀行に預けて利息をもらったほうがましだと言われたのだ。もちろん、ここで主人とは神様のことである。そして、ここにてでくるタラントはお金の単位だが、イエスが私たちに語っている事はお金ではなくて私たちにあたえられた生きる能力、強いて言えば、神様が私たち

に与えて下さった人生そのものを語っておられるのだ。わたしたちの人生は神様から預けられたものを生かしていくか、殺してしまうかという課題を負っているのだと加藤牧師は本の中で書かれている。一体それはどういう意味をもっているのだろうか。才能を一杯持っている人はラッキーな人生を送り、その逆の人は惨めな人生を送ることになるのだろうか。いや、イエスはこのたとえ話を通してそうではないことを言われている。五タラントを預かった人は迷いもせずさつさと社会に出ていき、お金をふやした。二タラントを預かった人も同じようにした。しかし、問題は一タラントを預かった人であった。このしもべだけはお金をなくすことをおそれて地の中に隠したのである。たぶん、彼の心の中にはかなりの葛藤があったはずだ。他の二人よりも少ない事。自分にはそれを増やすような能力がないという不安や自信のなさもあったであろう。

一番肝心なことは神様がしもべの能力を心から信頼していたにもかかわらず、このしもべはその信頼を裏切り、自分の神様への信頼もなくなってしまう事である。考えてみれば、能力の大小は人生においてあまり重要ではないような気がする。大切な

国にはそうした組織は無いものと思っていたが、これこそが、クラブなのだ実感させられた。その途端に私はこのクラブへの侵入者であることに理解し、気恥ずかしくなったが、立て馬を立てている理由も分った。

談笑に興ずる元学士様達とはあきらかに異なる若いサラリーマン風の男が、新聞を顔に乗せたまま昼寝を決めこんでいるのである。それにしても大学は今、忙しすぎ、また効率ばかりを問題にすぎではないのかと想った。元学士様達が大学で青春を謳歌した時代に戻れと時代錯誤的なことを言うつもりはないが、彼等が、こうして今クラブに集まれる人間関係を大学で築きあげた、その自由の精神については、考え直してみる必要があるのではないかと等とそのとき考えていた。



のは与えられた能力を感謝し、生き生きしているかということである。

アフリカ現地の人々に仕えたシュバイツァーは三六才まで大学教師であり、名の知れたパイオルガン奏者だった。しかし、彼は人生の半ばでアフリカの原始林の中で病に苦しみ、助ける者もなく死んでいく多くの人がいることを知り、医者としての資格を取り、現地に行き、九〇才で死ぬまで神に仕え、原始林の人々と共に生きた。彼がどれ程のタラントを神様からいただいていたかは私たちの想像をはるかにこえるものだと思うが、それよりも彼がそのタラントを自分の名譽のためや自己主義なものに使わず、神様との相互の信頼のもとに生かしていたことが素晴らしいと思う。

今年も神様に与えられたタラントを感謝して生かすことができるよう、又、社会がそのような愛の共同体になるよう祈りたい。



梶原  物真似がウマイ?

HAPPY NEW YEAR!!

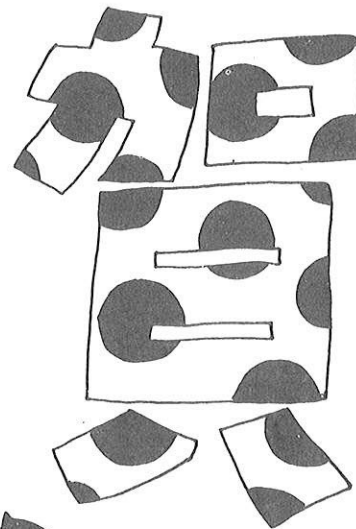
昨年は本朝 お世話に
なりました。お陰で子ども
達も 暗い 経験をもたせ
真実に育てました。
本年もよろしくお願いし
ます。梶原 亮

ヒョウがウマイ?  竹花

明けましておめでとうございます
とって元気でかわいい子どもたち
にエネルギーをわけてもらって歩み
をすすめているところです。
これから見守っていて下さい。
今年もどうぞよろしくお願い
致します。 竹花 信恵

料理がウマイ?  中村

新年明けましておめでとう
ございます。今年も子供達と
共によろしくお願い致します
本年も宜しく御指導下さい
中村



中川  スポーツがウマイ?

ありましておめでとうございます
皆様の お支えに心より感謝申
上げます。本年もどうぞよく
お願い致します。
子どもたちの笑顔の時間が少し
でも増える様、今年も頑張り
たいと思います。 中川 昭雄

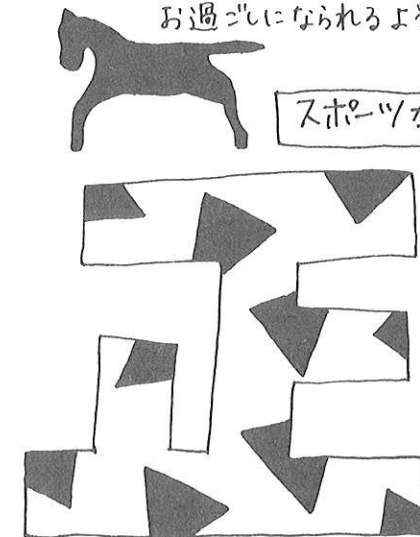
早口がウマイ?  北谷

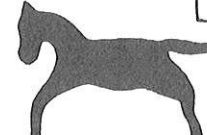
明けまして
おめでとう
ございます。
いつもお支えありまして
ございます。
本年もどうぞよく
お願い致します
北谷 健彦

鎌田  おいあちゃん役がウマイ?

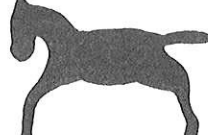
鎌田 孝子

新年明けまして おめでとう ございます
いつも暖かいご挨拶を心より感謝申し上げます
朝の日のあたたかさに、昼の日の光に、そして夜に
安心に、大層なごちそうをいただき、ありがとうございます
明けましておめでとうございます。
今年も子ども達と共に成長していけるように精進していきます
と思っています。皆様には今年も光の子ども達の家を見守り、応援して
いただけたら幸いです。皆様が健康にこの1年を
お過ごしになれるよう、心から祈っています。
積 みどり

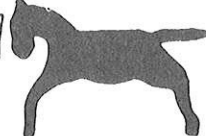


スポーツがウマイ?  五木田

明けましておめでとうございます。
光の子ども達の家も17年目を迎える建物の痛みが見ら
れるようになりまして、物の痛みは直せませんが子供達
の心の痛みはお金では直せず結果が出るのは
10、20年後です。今年も心を新たに頑張ります。
今年もよろしくお願い致します。 五木田 健三

服部  手芸がウマイ?

明けましておめでとうございます
皆様の温いお支えの
おかげで、子どもたちと新年
を迎えることができ、
心より感謝しております。
馬のようには優しく、どの
力強さが育まれる生活に
していきたいと思っています。
本年もどうぞよろしくお願い
致します。
服部 シン子

金基定がウマイ?  田中

明けまして おめでとう ございます
旧年中も皆様の お支えの内に交えられ
て参りましたことを感謝してお
ります。本年も子ども達の 安全に
祈ります。皆様のご健康が
祈ります。 田中 郁夫

おん
音頭がウマイ  穴水

明けましておめでとうございます
昨年は世界中が戦いの中で終
ました。世の中も、光の子ども達
達も、まず隣人が暮らせるよう
行いができる年になるように
願っております。
みな様のご支援に感謝
し、今年も皆様からのたくさん
の祝福がありますように
お祈りします。 穴水 祐介

プリズム

子どもたちの季節 仙道家

新年明けましておめでとうございます。

昨年は皆様のお陰で子どもたちとの生活をつくっていくことができました。ありがとうございます。

小学六年の由花は、とても小柄な女の子。

「六年生で、ウチ二番目なんだよ。一番は華美。」と原田家の華美と背の順では競っています。

背は小さいけれど心は思春期です。まだ、実習生のひざに座ったりとスキンシップの要求もたくさん持っています。担当には言えなくとも指導員に入所以来会っていない母について話したり、と心の中は色々な想いを抱えています。

アメリカでテロ多発事件が起き、自衛隊派遣が議論されていた時には、「憲法で、だめ」って決まってるならだめだね。」とまともなことを言っていました。

大人のこともよく見ていて、ある保育士の口ぐせを真似たり、その口ぐせが少なくなると「大人も成長してるってことだね。」と、びっくりすることを言います。

ある時には、原田家の藤耶がいつも和哉のことをいじめることについて話していると、「和哉は、みんなにかわいいって言われているからじゃない。藤耶のこともかわいいって言えばいいんだよ。」と、私に教えてくれることもあります。

確実に成長していると感じることが多い由花ですが、由花の成長に追いつけず、どんな時も由花が心を許し、由花に寄り添う担当者になっていないことを改めて申し訳なく思っています。

池田 祐子



光の中で 佐藤家

新年明けましておめでとうございます。時が経つのはとても早いもので、もう二〇〇二年の始まりです。

二〇〇〇年四月。光の子どもの家に来たばかりの私に担当された子どもたち四人、多歌音、福子、美季、花子。そして、十月からは静一が加わり、五人のグループになりました。二〇〇一年という一年は、どの子どもも、様々な形で不安である事を表現していました。多歌音、美季は一般的にはマイナスに見られてしまう形で、福子は受験ということもありましたが、笑顔がとっても素敵はらずが常に陰しい表情、花子は夜泣きを始めてよく泣いていました。そして、静一は、自分の要求が通らないと泣く、叫ぶ、暴れるなど激しいものでした。

二〇〇一年は、子どもひとりひとりが成長し、不安や悩みを抱えていても、その表現が段々とストレートになってきました。そして、お互いがお互いを思いやる時が増えてきた一年でした。

例えば、多歌音や福子が花子や静一をお風呂に入れてくれたり、添い寝をしてくれます。美季、花子、静

一は、自分たちの布団だけでなく、私の布団まで敷いてくれるようになり、嬉しそうに「市川さんの布団も敷いといたよ」と報告してくれます。正直言って私にとっては情けない話ですが、子どもたちのとても優しい心の成長(?)の一面面を書きたいと思います。

ある日の就寝場面、私がまた些細な事で花子と静一のことを怒ってしまった時、自分のあまりの情けなさに子どもの前で泣いてしまった事がありました。明らかに私の方が悪いのですが、静一は「どうしてなくの。せいいちがわるかった」と泣いてくれたのです。花子も「どうしたの」と何回も何回も心配してくれました。美季は、どんどん泣いてしまう私を見て、静一と花子に「そう言うともって泣いちゃうからやめな」と優しく言ってくれました。ほとんど何もできていない私のことを思ってくれる子どもたちに感謝すると同時に心の成長を感じた出来事でした。

二〇〇二年という一年も子どもたちと共に今より一歩でも前進できるよう、一日一日を大切にしていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

市川 美穂

原田家日記

あけましておめでとうございます。あつという間に一年が過ぎ、また一年が始まるうとしています。本日に早いなあと思ういます。

病気になる、三ヶ月の間、休暇をいただきました。掃除、洗濯、食事など家事をする必要がなくなっただけは、物足りなさを感じました。

子どもたちと過ごす賑やかすぎるほどの毎日が、本当に幸せで充実していたんだなあと思付くことができました。

仕事に復帰して、担当を持たずにいる私に「大丈夫だよ。神田さん。がんばればそのうち、職員になれるよ。」と励ましてくれました。私はボランティアでも思われているのだろうか……。なんだか複雑な気持ちです。

仕事に就いてから、担当していた子が三月で卒園します。一年目の時施設長に「川中が卒園するまでいてくれよ。」と言われ、まさか、あと

河のほとり

倉澤家

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願致します。

中三の有希から、川越の高校を受験したいという申し出があった。それは、中卒後母宅に戻りそこから高校に通いたいということだった。

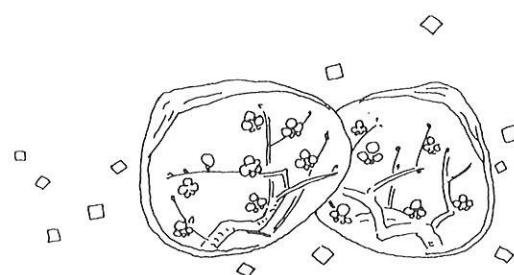
入所当初は母との悪化していた関係を引きずって、母からの電話に出ることも拒否的であったが、徐々に関係が回復し、少しずつ母とは良い関係になっていった。

十一月初めには母と兄が来訪し、久しぶりに顔を合わせることができた。以前から、中学卒業後には引き取りたいと考えていた母。自分のことだけでなく母や俺(兄)のことも考えろと兄から言われたこともあり、すっかり里心のついてしまった有希施設長、兄相のケースワーカーにも相談したが、最終決定は有希本人に委ねられた。

そして十二月の初め、相当悩んだあげく行き着いたのだらう。施設長、担当者、ケースワーカーには手紙で「高校の三年間は、ここから通わせよう」と決心しましたので、よろしくお願致します。」という有希からの報告があった。

家族と一緒に暮らしたいというごく自然な有希の思いを大切に育てながら、今は有希が自分自身を成長させることに集中できるよう見守っていききたいと思っている。

倉澤 智子



八年も働けるわけないと思っていたが、何とかいけそうです。専門学校へ進路が決まり、新聞奨学生で働きながら勉強することになりました。希望ある未来に、がんばってほしいと思います。この八年の成長はめざましく、立派な青年になりました。あと残り数ヶ月、楽しい思い出をたくさん作ってほしいです。

今年も、原田家の子どもで帰省できる子は、ほとんどいません。今年もまた、賑やかなお正月をむかえることになりました。

神田 幸枝

出 発 その3

菅原 哲男

萌季のような子どもたちが利用しなくてはならない児童養護施設は、家族や親が守り創ることができなかった生存権や生活権を保障するためにつくられているものである。

光の子どもの家の職員採用の基準の一つに『決意』のほどがある。自分の人生を必要な他者の役に立てたいという願いと、それに自らを投企する決意なのである。

萌季がやってきた頃から、年度末にそれぞれが自分のはたらきを評価反省して次の年度に目指す目標を設定する「総括」を、子どもの成長や課題の克服の度合を総括して来年度の計画を策定する前の段階で全職員でしてきた。一人の総括に何人かが、もう少しよい関わりができるようにと願って忠告や注文もする。

開設の翌年だった。ある保母が「私が担当でなかったらこの子たちはもっと素直に成長することができただろう、すみません。」と言って泣いてしまった。その思いはその時の全職員が共有したのだった。

「こんな私でよかったら」、「私でなかったらもっとよかったのに」

という思いは、光の子どもの家の全職員に今も引き継がれている。

子どもとの生活の中で、労働権など多くの領域の権利と、子どもの生活権とが衝突する時、優先順位について判断が困難な問題が発生する。

年越しや元日、お盆の帰省時期などに職員が自分の家に帰りたいかったり、クラス会などに出席したかったりするのである。繰り合わせて可能であれば融通することもあるが、子どもたちにとって殊さら家族の色彩が濃くなる時期でもある。昨今は家に帰ることのできる子どもたちの数は減ってきているが、調整して帰る子どももある中で、帰る家がないことがひとしお身にしむことにもなる。そんな時、光の子どもの家では子どもとできるだけ楽しく過ごす関わりを大切にしてきた。子どもの生活権が大人の権利に優先するのである。

「あなたは施設長として不適格だから辞職せよ」と、かなり一方的に迫られたことがあった。話し合っ解決すべく職員たちも懸命に努力をしたが、その人は頑として応じなかった。自分が職員の代表、責任者とし

て対応しななど考えたこともなく、よい人があつたら代わるべきだと常に考えてきた。しかし、何よりも、

子どもの生活を守るために全力を尽くすべきだというのが、その時の私や職員たちの一致した考えであった。私の名誉や社会的地位などを守ることに、子どもたちの生活を守ることのどちらを選択すべきかは明白なことであった。子どもの生活に可能な限りマイナスを避けることが最終的な結論となったのである。

「正義」を振りかざす人々・上昇志向の強固な学者、文化人などに、最初の情報を鵜呑みにし、感情的に攻撃して止まない者たちがいる。子どもの喧嘩でも予見を持たず双方の言い分を中立な立場で充分に聞き取り、双方が納得できるような対処をするというのに・である。

人は、絶体絶命の危機にどう対処するかで値打ちが試される。どうしても自分の都合のよい理屈や側に寄るものである。私もそういう傾向を持つ者でもある。自戒していきたい。

光の子どもの家はまさに、絶体絶命の危機的状況で施設入所を余儀なくされた者たちのためのより所なのである。そこは、大人の身勝手な「正義」を実現するためにあるものでは断じてないのだから。

自らの生よりも上位に子どもたちのそれを置く決意と努力が必要なのである。そこでは、自らが痛みながら子どもが生きていくための役に立つという、通常の親が持っているはずの覚悟がいつも試されるのである。施設の子どもの権利擁護は、その地平から初めて追求されることが可能になるのである。

萌季が米国に留学したいと言いだした時、経済的な見通は全くなく、高校進学資金を遣ってしまうと、高校進学さえも不能になる、と悩んだ。そんな時、岩崎が、私の蓄えの中から貸与したいと申し出た。自分の子どもを持ったことはないが、もし、自分の子どもだったらそうするだろう、というのである。

出発の前、今後無償で他人から何が提供されることはないし、人を当てにして生きていくような思いなどを持たないようにと、借入書を取り交わして留学に必要なとりあえずのギャランティができたのであった。

「返してもらおうなんて思っていないけど、これが本当に萌季の役に立つといいと思う。生きていくために必要な大切なことを、伝えきれないことだらけの十七年間のお詫びのようなもので・・・」と、岩崎はしみじみと言った。(以下次号)

現場から

続・光の子らしく

⑨

岩崎 まり子

新年明けましておめでとうございます。昨年も大変お世話になりました。ありがとうございます。本年もどうぞよろしくご指導下さいますようお願いいたします。

さて、萌季の渡米以来動きのなかったグループでしたが、子どもを取り巻く社会情勢はそれを許さず、緊急一時保護という形で三才の善実ちゃんがやってきました。善実ちゃん、まんまるほっぺにお人形のような口元、歌もおしゃべりもとても上手な女の子です。ただ、彼女には煙草の火を押しつけられて出来た火傷の跡がありました。

ここへ来る一日前にそれまで預け

られていた祖母宅へ挨拶に伺いました。入所前面接というものです。写真を持っていてここでの生活について説明し、「待つてるからね」と伝えるのです。祖母が涙ながらに「そこへ行く？」と尋ねると善実ちゃんは大きく頷き、もう一度尋ねられても何の心の動きも見せずただ「うん」と返事していました。

がらりと生活の場が変わったわけですが、親族と別れて泣くわけでもなく、もじもじとするでもなく、すぐ他児の中に入り込みはしゃぐことの出来る善実ちゃんは、これまで親身になって育ててこられた方々を内心がっかりさせたことと思います。けれど、それが今の善実ちゃんなの

だと受け入れていくことからしか出発できません。それを毎日自分に言い聞かせています。

善実ちゃんが来て二週間が過ぎましたが、「だつとちてよ（抱っこしてよ）ミ下りる！」というやりとりに見られるように、抱っこしてお互いに寛ぎ合える関係になるには、もっともっと彼女が安心できるように関係、生活が必要です。それをまだ提供できないのは、私の力量、努力の足りなさです。一度大きなマイナスの人間関係を与えられた子供が、プラスの人間関係を持つのはとても難しいことです。が、いつかどこかで誰かが努力することでそんな子供が少しでも生き易くなればとこの仕事を続けてきましたが、現実とはとても厳しいものです。自分自身の未熟さが明らかになるばかりです。

毎日のように「善実ちゃんが囁ん



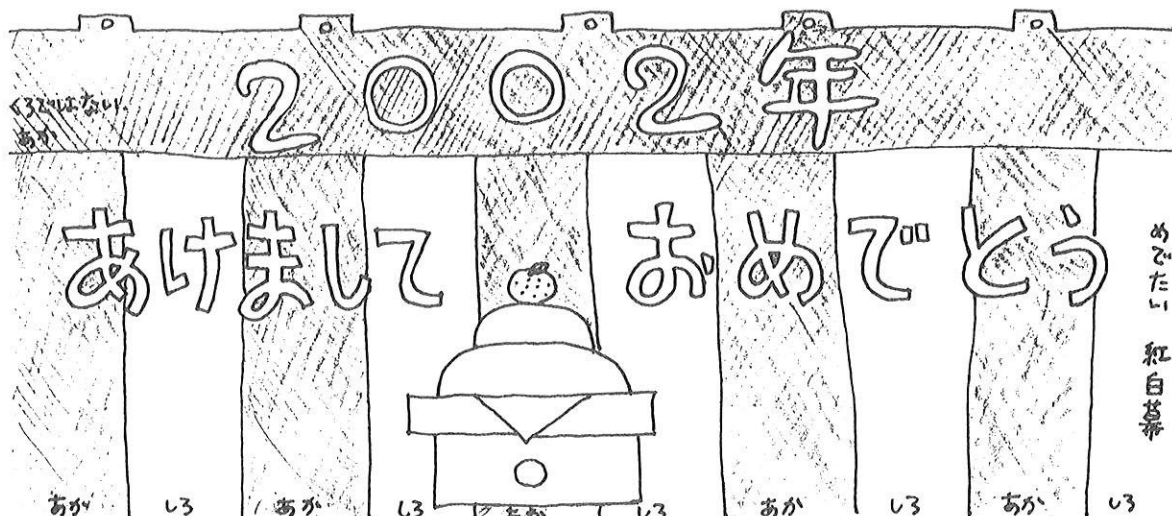
だあ」「善実ちゃんが囁ん首、引つ張ったあ」「善実ちゃんが押したあ」「善実ちゃんが...」とあがる「被害者たちの声」に「ごめんね」という言葉も疲れ気味。善実ちゃん本人は、「ごめんね」と言っているそばから隣で一緒

に謝っている私の膝に乗ったたり滑ったりしている始末。相手の子どもたちはとても寛容ですが「いいよ」と許してくれるのですが、私のため息は続いてしまいます。私が疲れてしまふ以上に、周りで被害にあう子どもの方が、そして誰より善実ちゃん本人が一番混乱し、疲れているだろうと、ついイライラしてしまつた後で思い返します。何しろ、自分が今までされてきたことで、しかも最愛の親という存在から、そして恐らく謝罪などされてこなかったであろう暴力に対し、NOを突き付けられているわけですから。

ここへ来た当初パジャマに着替える時など指吸いしながらその火傷を他方の指でなぞっていた善実ちゃん。知らず知らずのうちに親との絆を確認していたのかもしれない。あの時「ごめんね」と大人の一人としてどうして謝ることができなかったのか。

せめて善実ちゃんが、人として情緒的なよい人間関係を結べるようになることを祈りながら関わっていきたい。

そして、私自身もこの子どもたちの半分くらいは寛容になれるよう器を拡げていける一年にしたいと思います。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

8月1日 ▶ 10月末日

- | | |
|---|---|
| 8月 | 21日 |
| 2日 プロ野球公式戦巨人ー中日戦を東京ドーム『長島ボックス』にご招待をお受けて観戦 感謝 | ○ 愛知県児童養護施設施設長会来訪 見学と交歓 |
| 3日 自立援助ホームえんどうホームより見学と交歓 | 27日 自立支援計画見直しを開始 全職員参加で |
| 5日 日本キリスト教団東大宮教会教会学校夏期学校に幼児・小学生12名が参加 2泊3日 | 29日 大利根中学校・久喜養護学校体育祭 |
| 8日 赤秀保育士病気休養 | 30日 原道小学校運動会 |
| ○ 埼玉アリーナへバスケットボール観戦 | 10月 |
| 10日 久しぶりの家族に手を引かれてお盆帰省開始 | 2日 施設内研修:森田喜治先生『被虐待児への具体的対応』加賀美尤祥 安川実 伊達直利各先生もご参集。 |
| 11日 帰省できない子どもたちが湯河原に海水浴の4日間 府川ご夫妻 黛執 戸辺喜久雄氏らのご招待で 感謝 | 6日 大利根藤幼稚園運動会 小さな赤白帽子が大活躍 |
| 16日 俳句結社『春野』主催みちのく吟行会に中学生2名とカリフォルニア大学実習生が参加 初作句の3日間 | 7日 福島勲前理事長ご夫妻ご来訪 豊かな夕食を 感謝 |
| 19日 東大宮教会CS中高科夏期学校に11名が参加 | 8日 菅野Drご来訪して関わりのスーパーヴァイズ |
| 24日 聖学院大学環境整備のワークキャンプ 感謝 | 9日 アメリカ留学に発つ油谷芽吹壮行会 |
| 30日 さよなら夏休みパーティ | 11日 渡米 |
| 今月の物品ご寄贈者 萬屋 青木久子梓沢あずさ 大塚としお しろがね荘 村井美紀 花見楨子 中山キリスト教会 武内豆腐店 土屋欽一 タカラブネ 鈴木重義の各位様 | 13日 カリフォルニア大学プライス博士ご来訪 見学と交歓 |
| 9月 | 22日 後援会・赤十字奉仕団環境整備ご奉仕 感謝 |
| 1日 第2学期始業式 | 30日 熱いお交わりの社会福祉法人雀幸園理事長深田美奈氏ご逝去 法人・職員一同で心からの弔意を表明 |
| 3日 埼玉県こども家庭課堀越主任 篠崎主査来訪 | 9・10月の物品ご寄贈者 小柳久子 小野ゆういち 国分梨園 タカラブネ 佐藤成子 三高商事 野沢とも子 牧野豊 山野井 羽鳥昇平 落合公子 野本百合子 宝月寿子 横村スミ子 コヤノ亨 大沢商店 あけぼの園 大塚東一の各位様 |
| 8日 北海道児童養護施設美深育成園川保育士来訪2日間 | 多くの方々のご支援により、より普通に近い暮らしを創り続ける新しい年を迎えました。更に励みます。感謝(くら) |

/// ———— 反 射 光 ———— ///

☆謹賀新年☆よい年を待つのではなく、隣人のよい年となるために役立とうとすることから歩み始めようとしています☆それでも、人は誤つ動物であることは歴史が教えてくれます☆自らを省みて最も多く救われる者であることも確かめなければならぬと深く思います☆おかげさまで、そんな年の初めを三十三名の子どもたちと十八名の職員が揃って、この年の祝福の豊かなことへの祈りを深めながら迎えることが出来ました。心からなる感謝を申し上げます☆たつた今京都府立大学教授津崎哲雄氏より『コルチャック先生のいのちの言葉』(明石書店)をお送り頂き、目次、まえがきを読んで熱い思いになりました☆訳者の津崎先生の労作ぶりと、コルチャック先生の言葉が身にしみたのです☆五十年前に書かれた言葉の一つ一つが、今、新鮮なメッセージとなつて迫るのです☆是非ご一読を☆家族からも愛されること少なかった子どもたちとの日々を祝うように紡ぎます☆この年も更なるご支援を!

(哲)